

国際博覧会推進本部（第5回）

議事録

日 時：令和4年12月20日（火） 11：05－11：20

場 所：官邸2階大ホール

出席者：岸田内閣総理大臣、松野内閣官房長官、松本総務大臣、永岡文部科学大臣、野村農林水産大臣、斉藤国土交通大臣、西村環境大臣・内閣府特命担当大臣、秋葉復興大臣、谷国家公安委員会委員長・内閣府特命担当大臣、小倉内閣府特命担当大臣、岡田国際博覧会担当大臣・内閣府特命担当大臣、門山法務副大臣、高木外務政務官、金子財務政務官、本田厚生労働政務官、長峯経済産業政務官、木村防衛政務官、尾崎内閣府政務官、鈴木内閣府政務官、中野内閣府政務官、木原内閣官房副長官、磯崎内閣官房副長官、栗生内閣官房副長官

【岡田大臣】

ただ今から、「国際博覧会推進本部」を開催いたします。御多忙の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の議題であるアクションプランVer.3の案について、資料1に沿ってご説明いたします。

1ページをご覧ください。アクションプランは、万博の成功に向け、各府省庁の取組をまとめたものですが、私が大臣に着任して以降、北海道から沖縄まで、多くの自治体・経済界とお話し、万博に対する期待は非常に大きい一方、全国的な盛り上がりが課題と感じています。そのため、今回の改訂では、新たに、機運醸成として「万博交流イニシアチブ」を打ち出すとともに、新たな施策の追加を行いたいと考えており、その点を中心に説明いたします。

2ページをご覧ください。万博交流イニシアチブは、万博を契機とし、全国で世界の来訪者との交流の拡大を目指すものです。5つの柱として自治体、観光、教育、文化・スポーツ、ビジネス・学術を掲げています。具体的に5つの柱それぞれについてご説明します。

3ページをご覧ください。自治体交流については、会期中、各国のナショナルデーなどに海外の姉妹都市を持つ自治体に参加するなど、全国の自治体と参加国との交流の機会を設けます。観光交流は、万博に訪れた海外からの来客を全国に誘客する仕組みを作るよう、観光庁と連携を図りたいと存じます。教育交流は、子どもたちが万博を通じてSDGsを学ぶ教材を作成したり、修学旅行や校外学習で万博に訪ずれる機会を提供いたします。文化・スポーツ交流は、2025年に東京で開催される世界陸上などとの連携を図ります。ビジネス・学術交流は、会期を通じて、全国規模でイベントやプログラムを集中的に行います。特に、教育交流に関しては、私から永岡大臣に直接ご相談させていただき、修学旅行や校外学習で全国120万人の子どもたちが万博会場に訪れる目標を打ち出すこととさせていただきました。引き続き、機運醸成に向けて関係大臣とご相談させていただきたいと存じます。

1 ページ飛ばしまして、5 ページをご覧ください。今回の改訂では、新たにスタートアップの参加や宇宙に関する施策を追加しています。6 ページ以降は、既存施策のアップデートのため、詳細は割愛いたしますが、各省庁のご協力により、おおむね順調に進んでおります。

以上がアクションプランVer. 3の案の概要です。それでは、意見交換に移ります。まず、松本総務大臣、よろしくお願いします。

① 松本総務大臣

2025年の大阪・関西万博に向け、総務省としては引き続き、次の三点に力をいれてまいります。まず、「Beyond 5G」について、2025年までの先行的な研究成果を「Beyond 5G ready ショーケース」として世界に示すことでBeyond 5Gの早期実現と、グローバル展開の加速につなげるべく、取り組んでまいります。2つ目、「多言語翻訳技術」については、研究開発を進め、AIによる実用レベルの「同時通訳」を実現し、様々な国から万博に訪れる方々が、言葉の壁を感じる事無く、スムーズにコミュニケーションできるよう、取り組んでまいります。加えて、リモートセンシング技術を活用し、高精度な3次元降雨(こうう)データを提供するための技術の開発を進めてまいります。これらの最新のデジタル技術を活用して、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の具体化に貢献してまいりたいと存じます。

② 永岡文部科学大臣

大阪・関西万博の機会を通じ、日本が誇る伝統芸能や舞台芸術、まんが・アニメなどの文化芸術、次世代ロボットや宇宙分野などに関する最新の研究成果を発信するとともに、スポーツへの関心を高める取組を進めます。また、関係機関とも連携し、万博に関する教育プログラムを都道府県などに展開するとともに、多くの子供たちに修学旅行等で万博会場を訪れてもらえるよう、修学旅行・校外学習等に携わる学校関係者の皆様などに対する周知に努めます。

③ 野村農林水産大臣

大阪・関西万博を通じて、我が国が世界に誇る日本食や農山漁村の魅力を世界に発信してまいります。そのため、会場内外での日本食の体験や農泊体験、営業施設等における国産食材の活用を推進し、多様な地域の食やそれを支える農林水産業、伝統文化を発信してまいります。併せて、万博会場の飲食店等における食品ロス削減や食品リサイクルを推進してまいります。さらに、木を暮らしに取り入れる「ウッド・チェンジ」や「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた取組とともに、スマート技術、フードテック、高度資源循環型食料供給システムなど、我が国の有する先端技術もしっかりと発信してまいります。

④ 斉藤国土交通大臣

国土交通省としては、今回改訂されるアクションプランに基づき、未来社会の実験場の

実現と日本全国における万博メリットの享受に向けて、取組を進めて参ります。具体的には、最先端のモビリティ技術の社会実装として、空飛ぶクルマの実現や自動運転の一層の推進、電動車の活用拡大、MaaSの推進に取り組んで参ります。また、カーボンニュートラルに資するエネルギー・環境関連技術の実証として、次世代船舶を活用した海上観光の実現や、強度等に優れた建築用木材であるCLTの活用推進に取り組んで参ります。さらに、観光・食・文化等に係る施策として、万博を契機とした全国への誘客促進やMICEの誘致・開催の推進に取り組んで参ります。最後に、最先端の科学技術の社会実装・実現として、独自シミュレーションによる熱中症や高潮に関する早期の情報提供に取り組んで参ります。今後とも、関係省庁や地元自治体等の関係者と緊密に連携しながら、ただ今申し上げた取組を進めて参ります。

⑤ 西村環境大臣

「未来社会の実験場」をコンセプトとしております大阪・関西万博においては、将来のカーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現を見据え、先進的な取組のショーケースとなるよう、環境省としても準備を進めております。「アクションプランVer.3」においては、カーボンニュートラルに向けた取組として、再エネ由来の水素と生ごみ由来のバイオガスから製造した合成メタンを会場で利用する実証事業や、会場アクセスバスへの電動車の活用拡大を位置付けています。また、サーキュラーエコノミーに向けた取組として、会場内での食品ロスゼロに向けた取組や、大阪ブルーオーシャンビジョンに関する情報発信を位置付けております。加えて、訪日外国人の誘客や万博の誘客効果の地方への波及を狙った、国立公園の魅力発信などを位置づけているところです。2025年の万博の開催に向け、準備を加速していきたいと思っております。

⑥ 秋葉復興大臣

東北の復興については、これまで国内外から多大なる御支援をいただき、その過程で数多くの教訓やノウハウが蓄積されてきたことから、万博を通じて今度は世界のお役に立てるよう、感謝の気持ちとともに、その経験をお示しすることにより、国際的な貢献を行って参ります。また、万博交流イニシアチブを通じて、被災地の食や伝統面での体験をはじめ、震災伝承を通じた防災力の向上等のためにも、国内外の方々が被災3県に実際に足を運んでいただけるよう、人的交流を進めて参ります。さらに、被災地発の最先端となる多様なイノベーションの成果についても、積極的に発信することにより、地域及び我が国全体の経済成長につながる取組となるよう進めて参ります。

⑦ 本田厚生労働政務官

我が国は世界有数の創薬国であり、製薬企業をはじめとするヘルスケア産業は、国民の健康・医療の向上に寄与するとともに、今後の経済成長の中核となる重要な産業です。このことをアピールするべく、万博では世界に先駆けて開発された日本の先進的な医薬品、医療機器や再生医療等の成果を展示し、我が国の医薬品、医療機器産業の研究開発力を世界に向けて発信してまいります。また、介護ロボット等のテクノロジーや、障害者の自立

と社会参加の促進等に資する支援機器等を情報発信したいと考えております。万博は、少子高齢化に対応し、健康な生活や長寿を享有することのできる社会の実現を加速化する絶好の機会ですので、厚生労働省としても、引き続き、地元自治体をはじめ、関係者と連携しながら取組を進めてまいりたいと思います。

⑧ 長峯経済産業政務官

大阪・関西万博については、各省より、博覧会協会への人員派遣や政策連携など、多大なご協力をいただいております。改めて御礼申し上げます。経済産業省としても、全国的な機運醸成やアクションプランの具体化、会場整備や運営準備等を加速していきます。アクションプランについて、経済産業省では、例えば、モビリティ分野では、自動運転やEVバスの開発実証エネルギー・環境分野では、水素発電の実証、ライフサイエンス分野では、PHRを活用したサービス体験の提供など、様々な分野に渡って取組を進めています。今回の改訂では、これらを具体化するとともに、スタートアップ支援と被災地復興の情報発信をさらに追加し、合わせて31政策を盛り込んでおります。また、私自身も、地域に直接赴き、大阪・関西万博への協力を呼びかけて回っているところです。2025年の万博開幕はもう目前であり、引き続きしっかりと取組を進めてまいります。

【岡田大臣】

ご意見ありがとうございました。しっかりと連携させていただきたいと存じます。それでは、本日お諮りした資料2-1、2-2「2025年大阪・関西万博アクションプランVer.3（案）」について本案のとおり国際博覧会推進本部決定としたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

ありがとうございます。それでは、本案のとおり決定いたします。最後に本部長であります岸田総理から、締めくくりのご挨拶をいただきたいと存じますが、プレスが入室しますので、しばらくお待ちください。

[プレス入室]

それでは、岸田総理、よろしくお願いいたします。

【岸田内閣総理大臣】

本日、大阪・関西万博の「アクションプラン」を改訂しました。大阪・関西万博は、新型コロナウイルスを乗り越えた先の、新たな時代に向けた国家プロジェクトです。その成功に向けては、国民、企業、自治体をはじめ、多様な皆様にご参加いただき、盛り上げていくことが重要です。このため、まず、スタートアップ、宇宙、スポーツ、教育など、様々な分野の施策を万博と連携させ、「未来社会の実験場」として、内容の一層の充実を

図ります。また、全国的な機運醸成の取組として、「万博交流イニシアチブ」を立ち上げます。イベントや外交の場でのPR等を更に一歩前に進め、インバウンドをはじめとする交流人口拡大につなげていきます。具体的には、全国の自治体と参加国との国際交流、訪日プロモーションや国際会議等の誘致・万博来場者の全国への誘客、万博への修学旅行・校外学習の促進、万博を契機とした日本の文化芸術・食文化の魅力発信・スポーツ交流、などを進めます。さらに、気候変動やSDGsなどの地球規模の課題について、テーマごとに、国際的な対話やビジネス交流などを集中的に展開する「テーマウィーク」を万博期間中に実施します。万博担当大臣を筆頭に、関係閣僚が一丸となり、地元自治体、経済界などとも連携しながら、会場の整備などの取組を着実に進めるとともに、「アクションプラン」に基づく取組を具体化してください。

【岡田大臣】

岸田総理、ありがとうございました。それではプレスの方はご退室をお願いいたします。

[プレス退室]

本日の議事内容については、資料を含め内閣官房から公表することを予定しておりますので、ご了承ください。岸田総理からご発言がありましたとおり、大阪・関西万博の成功に向けて、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上で閉会いたします。ありがとうございました。

以上